

## 「新・方法」講義立会記

### 匿名希望

今回は美術家・中ザワヒデキの立教大学での「新・方法」講義について、立会人として記したいと思う。

新・方法は2010年9月4日の新・方法主義第一宣言から始動した。この時点でのメンバーは平間貴大、馬場省吾、中ザワヒデキであった。しかしこの宣言を出したとき、彼らは美術家などという肩書は使用せず、自らの名前だけを宣言に記載している。また、その一年後である2011年9月4日には新・方法主義第二宣言が、同じく個人の肩書の記載は一切なしで発表された。そして2012年2月18日に中ザワヒデキが脱退し、皆藤将が新たに「新・方法」に参加し、第一宣言から二年後の2012年9月4日に新・方法第三宣言が発表され、現在に至る。

次に「新・方法」の活動についてであるが、その特徴として同語反復が多く用いられている。それは活動の始まりでもある新・方法主義第一宣言からも見て取れるが、そこで用いられている同語反復は第二宣言とは少々異なっている。中ザワはこれを「新・方法主義第一宣言の言葉の関係を表すなら  $A=B$   $B=C$   $C=A$  というようになるが、新・方法第二宣言のほうは単なる  $A=A$   $B=B$   $C=C$  というようになっている」と説明していた。同語反復の奥深さを垣間見た瞬間であった。また、数ある新・方法主義の作品の中で私が個人的に好きなのは、月曜日から日曜日までの一週間にわたるメールを用いた作品である。内容は「今日は～曜日である」という文章だけだが、そのシンプルさと明日もこのメールは来るのか、またこの作品は一体いつまで続くのだろうといった受け取り手の心情が相まって、二次元にとどまらないような作品ができるのではないかと私は考える。

新・方法主義は、以前の方法主義と比較するとややスタイリッシュな印象を受けた。宣言にもある通り、新・方法主義は新・方法主義であるという言葉は一見突飛な印象をうけるが、やはり新・方法主義は新・方法主義であるとしか言いようがないのである。